

<学協会からの活動報告>

・日本堆積学会（後藤）

2011年12月 日本堆積学会長崎大会にて津波堆積物シンポジウムを実施。

シンポジウムのまとめとして学会誌「堆積学研究」にて特集号を予定。

2012年5月 津波堆積物ワークショップを千葉大学にて開催、翌日に房総半島巡検を実施。定員50名（巡検は20名）に、120名以上の申し込みがあるなど、社会から高い関心。

堆積学会としては、今後も津波堆積物（地震性堆積物も）の理解向上に資する企画を行っていく予定。

・日本気象学会（江守）

1. 学会の「教育と普及委員会」「地球環境問題委員会」共催で、気象学会大会期間中の5月26日（土）午後に公開気象講演会「地球温暖化問題における科学者の社会的役割」を開催。
2. 地球環境問題委員会で地球温暖化問題に関する一般向け書籍の出版を検討中。

・日本雪氷学会（西村）

2012年3月11日14時46分に発生した東北地方太平洋沖地震は、東北から関東に至る広範囲で甚大な被害を引き起こしたが、その翌日12日午前3時59分にも、長野県北部を震源としたマグニチュード6.6の地震が発生し、長野県栄村では震度6強、また新潟県津南町、十日町市では震度6弱をそれぞれ記録した。ちょうど2010年から11年の冬期は大雪で、当該地域では積雪深が2mを超えており、地震に誘発されて数多くの表層雪崩、全層雪崩、土砂崩壊を伴う雪崩が発生し、道路や建物に多大な被害をもたらした。また、上記の震災に加え、2011年7月27日から30日には新潟・福島豪雨により多くの斜面災害が発生した。これに伴い、雪崩対策施設の被害（予防柵の崩落、予防柵上への土砂堆積など）や樹木の崩落により雪崩発生危険度が一層高まることとなった。こうした背景を踏まえ、9月23日、雪氷学会のメンバーにより、豪雪と地震・豪雨の複合災害発生後の現況の把握と今後の対策に資することとを目的として、当該地域の現地調査が行われた。

・地球電磁気・地球惑星圏学会（小田）

1. 「東日本大震災および福島第一原発事故に関連したSGEPSS会員による発表論文」のリストの充実化（3件追加）。

http://www.sgepss.org/sgepss/shinsai_publication.html

2. Earth, Planets and Space (EPS誌)の「東北地方太平洋沖地震」特集号第1弾

“First Results of the 2011 Off the Pacific Coast of Tohoku Earthquake”

に引き続き特集号第2弾“The 2011 Tohoku Earthquake”の今年中の出版を目指して作業中。

※ EPS誌は地球電磁気・地球惑星圏学会、日本地震学会、日本火山学会、日本測地学会、日本惑星科学会の5学会の合同企画・運営による欧文学術誌。

<http://www.terrapub.co.jp/journals/EPS/index.html>

・日本地理学会（須貝）

1. 2011年3月11日の東日本大震災直後に、矢ヶ崎典隆理事長(当時)を本部長とする「日本地理学会災害対応本部」を設置し、様々な情報の収集と発信をHP等で実施（2012年3月31日、対応本部解散、通常委員会の地理学会災害対応委員会が対応継続中）。

学会員による現地調査報告を掲載し、とくに、災害直後に撮影された空中写真判読をもとに、青森・岩手・宮城・福島・茨城・千葉県の津波浸水域マップを早い時期から電子化し、HPで自由に閲覧できる形で公開。URLは<http://danso.env.nagoya-u.ac.jp/20110311/>

2. 東日本大震災地理教育復興支援事業

東日本大震災で甚大な被害を受けた小学校、中学校、および高等学校における地理教育に関する復興支援事業、「東日本大震災地理教育復興支援事業—被災校に地理教材を！」（協賛学会：日本地理教育学会・地理空間学会そのほか、ドイツ、スイス、オーストラリアの地理学会も賛同）を実施。大震災発生以降、会員から支援事業のための賛助金を募り、2011年9月下旬、総額500万円を被災校の地理教育の復興支援のために助成。被災校からの助成申請（6月11日から8月5日まで受け付け）にもとづき、以下の宮城県・岩手県・福島県の小学校、中学校、高等学校、合計45校が助成対象。

	小学校	中学校	高等学校	(学校数) 計
岩手県	7	3	1	11
宮城県	17	9	1	27
福島県	1	2	4	7

3. シンポジウムの開催

- 3.1. 日本地球惑星科学連合地球人間圏セクション主催（日本地理学会共催）「東日本大震災シンポジウム—地球人間圏学の視点—東日本大震災の教訓を生かして南海・東南海地震に備えるために」（2011年10月9日13時より関西大学千里山キャンパス）
- 3.2. 日本地理学会（地理教育専門委員会）主催「災害と子どもたちの教育を考える—東日本大震災被災学校の現在とこれからの地理学・地理教育」（2012年3月4日（日）13:30~16:30：慶應義塾大学三田キャンパス）
- 3.3. 2012年地理学会春季学術大会 地理学会災害対応委員会主催公開シンポジウム「東日本大震災と地理学—ハザードマップを再考する—」（首都大学東京3月28日）
- 3.4. 2012年地球惑星科学連合大会セッション「人間環境と災害リスク」を主催（活断層学会・第四紀学会・地理情報学会・地質学会・火山学会・連合環境災害対応委員会共催）（発表件数30件）。（5月23日9:00~15:15口頭 15:45~ポスターコアタイム）
- 3.5. G空間EXP02012シンポジウム「地理学から提言する新しい国土」を開催。（2012年6月23日（土）10:00~12:00、パシフィコ横浜）
- 3.6. 2012年地理学会秋季学術大会 地理学会災害対応委員会主催公開シンポジウム「いま改めて二つの大震災から学ぶ—阪神・淡路大震災・東日本大震災と地理学・変動地形学—」（開催決定）。

・東北地理学会（村山・黒木）

1. 大会

2011年5月 春季大会（開催場所を変更して開催） 東日本大震災等災害関連発表 16本

2011年10月 秋季大会 東日本大震災等災害関連発表 18本 + シンポジウム

2012年5月 春季大会 東日本大震災等災害関連発表 23本

大震災関連の発表多数あり。人文地理学者による発表が増加傾向。

2. ウェブサイト

調査結果等を含むコンテンツをアップ。

当初から英語による発信を心がけ、海外からも多数のアクセス。

3. 会誌と書籍

季刊地理学の震災特集号を準備中。書籍（英語）を準備中。

・水文・水資源学会（真木）

1. 2011年総会・研究発表会において「東日本大震災特別セッション：東日本大震災に対応して水文・水資源学会は何をすべきか」を開催（2011年8月30日 13:30～15:00, 京大宇治キャンパス 宇治おうばくプラザきはだホール）。

(1) 研究グループ報告（第1報）

- 1) 地震によるアースフィルダムの被害諸特性と今後の影響に関する調査（福島大 川越清）
- 2) 東日本大震災対応地下水調査研究（広島大 開発一郎）
- 3) 水循環・水利用プロセスに伴う放射性物質移動の追跡と影響評価（筑波大 恩田裕一教授／発表：京都大 山敷庸亮）

(2) 特別講演

放射性物質の流域内循環の基礎知識と調査法（筑波大 恩田裕一）

2. JpGUでのセッション共催

(1) セッション：「水循環・水環境」

水文関係4学会（水文・水資源学会，水文科学会，地球化学会，地下水学会）共催

(2) セッション：「都市における極端気象」

災害環境対応委員会，水文・水資源学会，日本地理学会，土木学会，自然災害情報学会共催

(3) セッション：「想定しにくい外力に対する水循環応答と生態系の緩和効果の推定（水循環と生態系効果の予測）」

水文・水資源学会，環境災害対応委員会共催

3. シンポジウム等の後援

(1) 「第6回土砂災害に関するシンポジウム」

（土木学会関西支部，2012年8月23日，24日（金））
後援

(2) 「震災時の非常用水源としての地下水利用の在り方」

（地下水学会シンポジウム，2012年5月26日），

(3) 第3回国際会議「変動する環境下における森林と水の関係」

（九州大学，2012年9月17日～20日）

(4) 「安全工学シンポジウム2012」

（日本学術会議総合工学委員会，2012年7月5～6日）

(5) 「日本大震災 あれから1年そしてこれから～巨大災害と社会の安全～」

（土木学会，2012年3月5-6日）

・地理情報システム学会（目代）

防災GIS分科会が中心となり，時空間GIS分科会，自治体分科会と協力して，以下の各種の支援活動を実施。

(1) 情報共有Webサイトの作成と他活動グループへの提供。

(2) 被災者データ，被災建物データ管理（具体的には罹災証明発行支援，倒壊家屋撤去申請支援など）に生きるソフトウェアの開発，提供。

(3) 各機関から提供される被害情報と基盤情報の重ね合わせ分析マップの作成と公開（津波被害地域の町丁目判定マップなど）。

その成果については，2012年3月27日に東日本大震災支援活動報告会として広く研究者，関係者を集めて報告。

情報は，以下のサイトで公開し，随時更新を実施。

<http://rarmis.jp/dpgissig/>

・日本地熱学会（宮越）

1. 東日本大震災に関する活動としては、エネルギーの安定供給への貢献という観点から、地熱エネルギーの利用促進に関する提言を発表（HPにて公開）。地熱エネルギーに関する問い合わせが増加しており、関連するQ&Aをホームページで公開。
2. 平成23年度学術講演会（鹿児島県指宿市）において、特別企画「再生可能エネルギーとしての地熱エネルギーの将来展望」を開催（2011年11月9日）。
3. 平成23年度学術講演会（鹿児島県指宿市）において、タウンフォーラム「地熱開発と温泉の共生」を開催（2011年11月10日）。

・日本地下水学会（林）

1. 2011年度の活動報告

(1) 研究活動支援

東日本大震災対応地下水調査研究（代表：広島大学 開発一郎）

水文・水資源学会の研究助成活動の支援として実施。成果の一部を2011年度秋季講演会（於：広島大学）にて報告

(2) シンポジウム「東日本大震災—今我々に求められる技術と研究—」の開催

2011年5月28日、つくば国際会議場、共催：日本水文科学会

講演

- ・2011年東日本大震災における地盤環境問題（京都大学大学院 勝見 武）
- ・地下水で東海・東南海・南海地震を予測する（独立行政法人産業技術総合研究所 小泉尚嗣）

(3) JPGUでの活動

セッション：「水循環・水環境」（水文・水資源学会，日本水文科学会，日本地球化学会との共催）

2. 2012年度の活動予定

(1) シンポジウム「震災時の非常用水源としての地下水利用の在り方」の開催

2012年5月26日，東京大学柏キャンパス，環境棟FSホール

共催：地盤工学会，日本水文科学会，後援：水文・水資源学会

1) 講演

- ・水供給システムの安全・安心確保（国土交通省水管理・国土保全局水資源部水資源政策課長 山本健一）
- ・東日本大震災津波の被災地における水の確保について（報告）（岩手県副知事 上野善晴）
- ・名古屋市における災害時の生活用水としての地下水の活用について（名古屋市環境局地域環境対策部地域環境対策課水質地盤係長 竹本和弘）
- ・東日本大震災における津波被害を受けた水源地下水の調査（長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科教授 中川 啓）

2) パネルディスカッション

コーディネーター：谷口真人（総合地球学研究所 研究部教授）

パネリスト：山本健一，上野善晴，竹本和弘，中川 啓

(2) JPGUでのセッション共催

セッション：「水循環・水環境」（水文・水資源学会，日本水文科学会，日本地球化学会との共催）

・日本水文科学会（林）

1. 2011 年度の活動報告

(1) 研究活動支援

災害時緊急調査補助金の助成

テーマ：福島県阿武隈地域の水系中における放射性核種の分布と挙動の実態調査

代表：安原正也（独立行政法人産業技術総合研究所）

ワーキンググループ活動への助成

テーマ：硝酸汚染問題に関するワーキンググループ

代表：小野寺真一氏（広島大学）

(2) シンポジウム「東日本大震災ー今我々に求められる技術と研究ー」の開催

2011 年 5 月 28 日，つくば国際会議場，共催：日本地下水学会

1) 講演

・2011 年東日本大震災における地盤環境問題（京都大学大学院 勝見 武）

・地下水で東海・東南海・南海地震を予測する（独立行政法人産業技術総合研究所 小泉尚嗣）

(3) JPGU での活動

セッション：「水循環・水環境」（水文・水資源学会，日本地下水学会，日本地球化学会との共催），セッション：「同位体水文学 2011」，セッション：「都市域の地下水・環境地質」，セッション：「流域の水文地質と物質循環」

2. 2012 年度の活動予定

(1) シンポジウム「震災時の非常用水源としての地下水利用の在り方」の開催

2012 年 5 月 26 日，東京大学柏キャンパス，環境棟 FS ホール

共催：地盤工学会，日本地下水学会，後援：水文・水資源学会

1) 講演

・水供給システムの安全・安心確保（国土交通省水管理・国土保全局水資源部水資源政策課長 山本健一）

・東日本大震災津波の被災地における水の確保について（報告）（岩手県副知事 上野善晴）

・名古屋市における災害時の生活用水としての地下水の活用について（名古屋市環境局地域環境対策部地域環境対策課水質地盤係長 竹本和弘）

・東日本大震災における津波被害を受けた水源地下水の調査（長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科教授 中川 啓）

2) パネルディスカッション

コーディネーター：谷口真人（総合地球学研究所 研究部教授）

パネリスト：山本健一，上野善晴，竹本和弘，中川 啓

(2) JPGU でのセッション共催

セッション：「水循環・水環境」（水文・水資源学会，日本水文科学会，日本地球化学会との共催），セッション：「同位体水文学 2012」，セッション：「都市域の地下水・環境地質」，セッション：「水文地質と物質循環」，セッション：「陸域・海洋相互作用：流域」

・日本活断層学会（吾妻）

2011年6月に「2011年東北地方太平洋沖地震に関連した地震活動・地表地震断層の評価に関する検討専門委員会」を設置。2011年11月の秋季大会において、シンポジウム「2011年東北地方太平洋沖地震に伴う内陸活断層の挙動と地震活動・地殻変動」を開催。2012年日本地球惑星科学連合大会において「プレート境界型巨大地震に誘発される内陸活断層地震」セッション（S-SS36）を開催（口頭5件，ポスター9件）。

・日本第四紀学会（吾妻）

2011年7月に東京大学小柴ホールで緊急シンポジウム「巨大地震を探る—第四紀学からのアプローチ」を開催。講演者は島崎邦彦，佐竹健治（以上，招待講演），澤井祐紀，鈴木毅彦，遠田晋次・吾妻 崇・藤原 治）。来場者約150名。

・日本応用地質学会（中筋）

千木良雅弘会長を委員長とする東日本大震災特別委員会が2011年6月に発足。活動方針は，委員自ら得た情報や会員から寄せられた情報を，学会誌・学会HP・掲示板などを通して随時配信すること。

今後の活動計画として，2012年7月に全地連と共催で，シンポジウム「地盤から見た東日本大震災」を開催するほか，11月の研究発表会や「応用地質」2013年2月号で特集を組む予定。

・日本火山学会（中村）

1. 2011年10月1日に旭川市教育委員会・日本火山学会主催で火山防災シンポジウム「北海道の火山とともに」を旭川市大雪クリスタルホール国際会議場大会議室で開催。2000年有珠山噴火からの教訓：北海道の火山との共生，歴史に見る火山災害の基調講演後に，北海道の火山と災害の教訓，十勝岳の火山防災，火山と共生するための防災についてのパネルディスカッションを実施。参加者は地元市民や学会員など約80名。予稿集は学会HPに掲載。

http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/doc/bousai_symposium_abst.html

2. 2012年5月21日に日本火山学会火山防災委員会を日本地球惑星科学連合2012年大会中に開催。我が国における火山防災の取組と火山防災エキスパート制度について，東日本大震災の時の官邸・政府の対応から学ぶ想定外大規模噴火災害への備え，についての講演後に質疑応答や討論を実施。出席者は約50名。

・日本国際地図学会（宇根）

1) 2011年度定期大会（2011年8月8日～10日，国土舘大学世田谷キャンパス）のテーマを「「地図」が伝える災害の真実」とし，特別セッション「命を守る「地図」とは？」，シンポジウム1「震災とジオメディア」，シンポジウム2「災害と地図」，巡検「浦安市の液状化被害地跡を歩く」を実施。

2) 学会HPに「東北地方太平洋沖地震に関する情報」のページ（関係機関，特別会員企業の震災関連サイトへのリンク集）を開設。